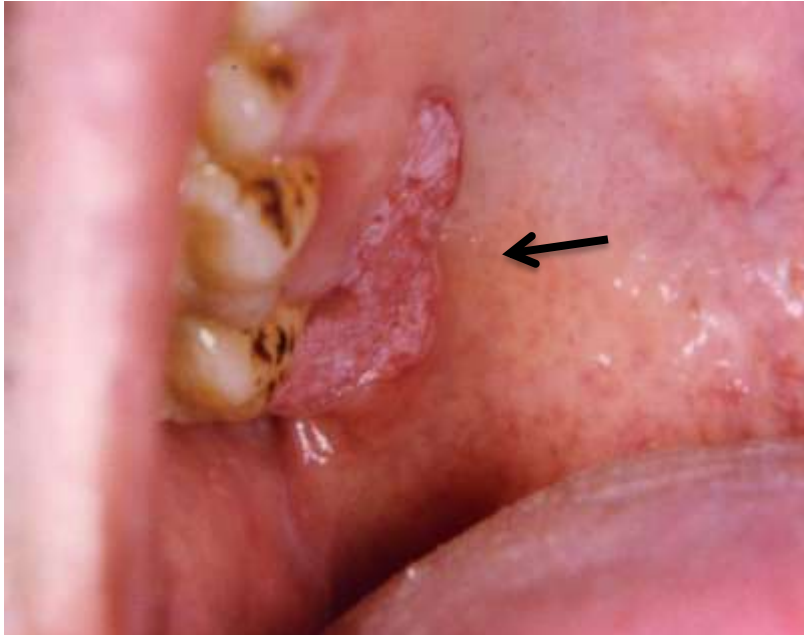


症例1（口腔）解説

口腔 症例



患者:68歳、男性。

主訴:3ヶ月前より、左側上顎
歯肉に違和感を自覚。

肉眼的所見で、表面粗造

→ 癌との鑑別のため、細胞診を実施する
意義あり

硬結、骨吸収なし → 腫瘍浸潤(一)

良性腫瘍の可能性を考える

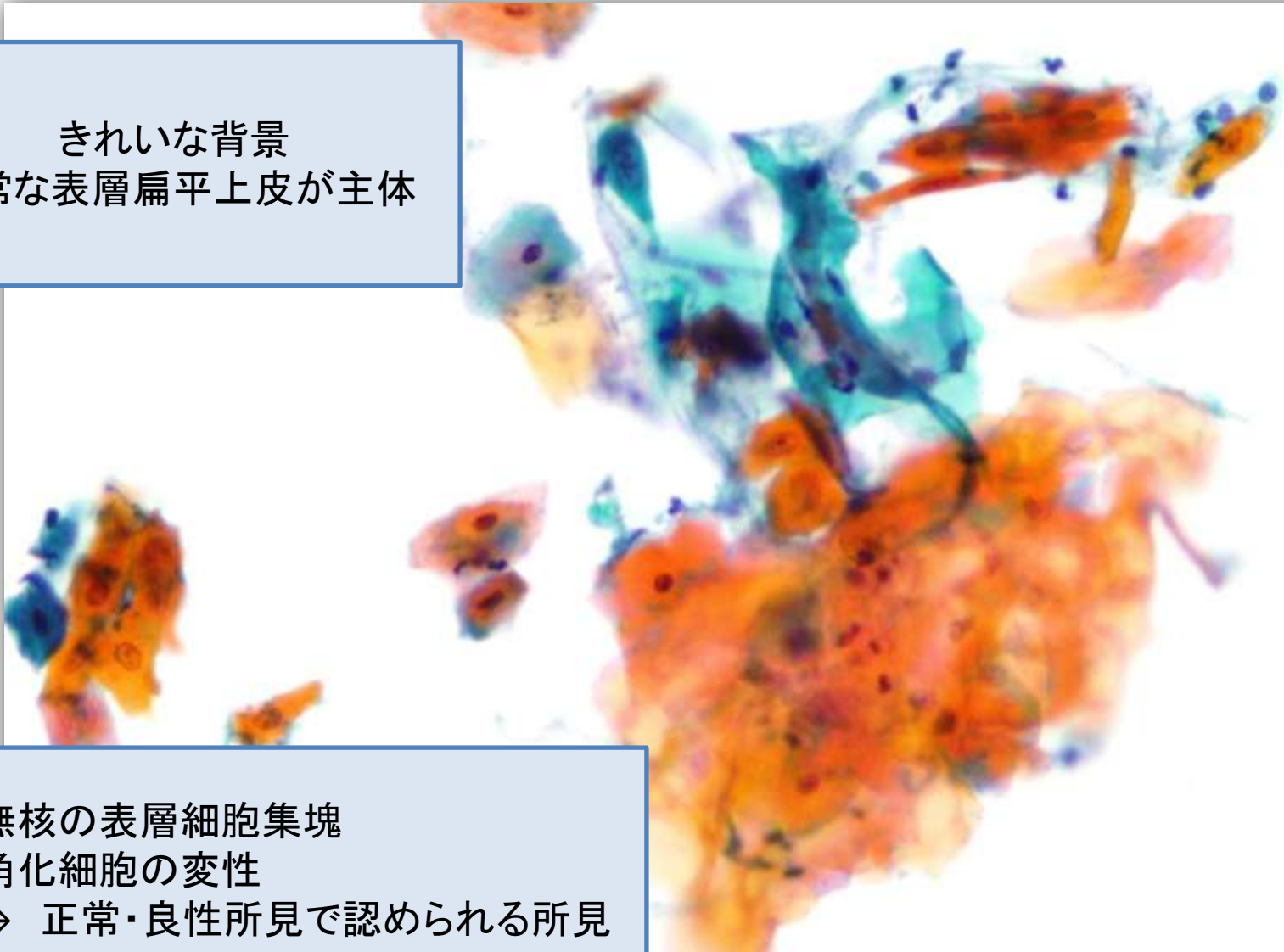
臨床所見

上顎歯肉に表面粗造な顆粒状白色病変を認める。周囲
硬結なし。X線にて骨吸収は認めない。
精査目的にて細胞診施行。

口腔 視野-1 弱拡

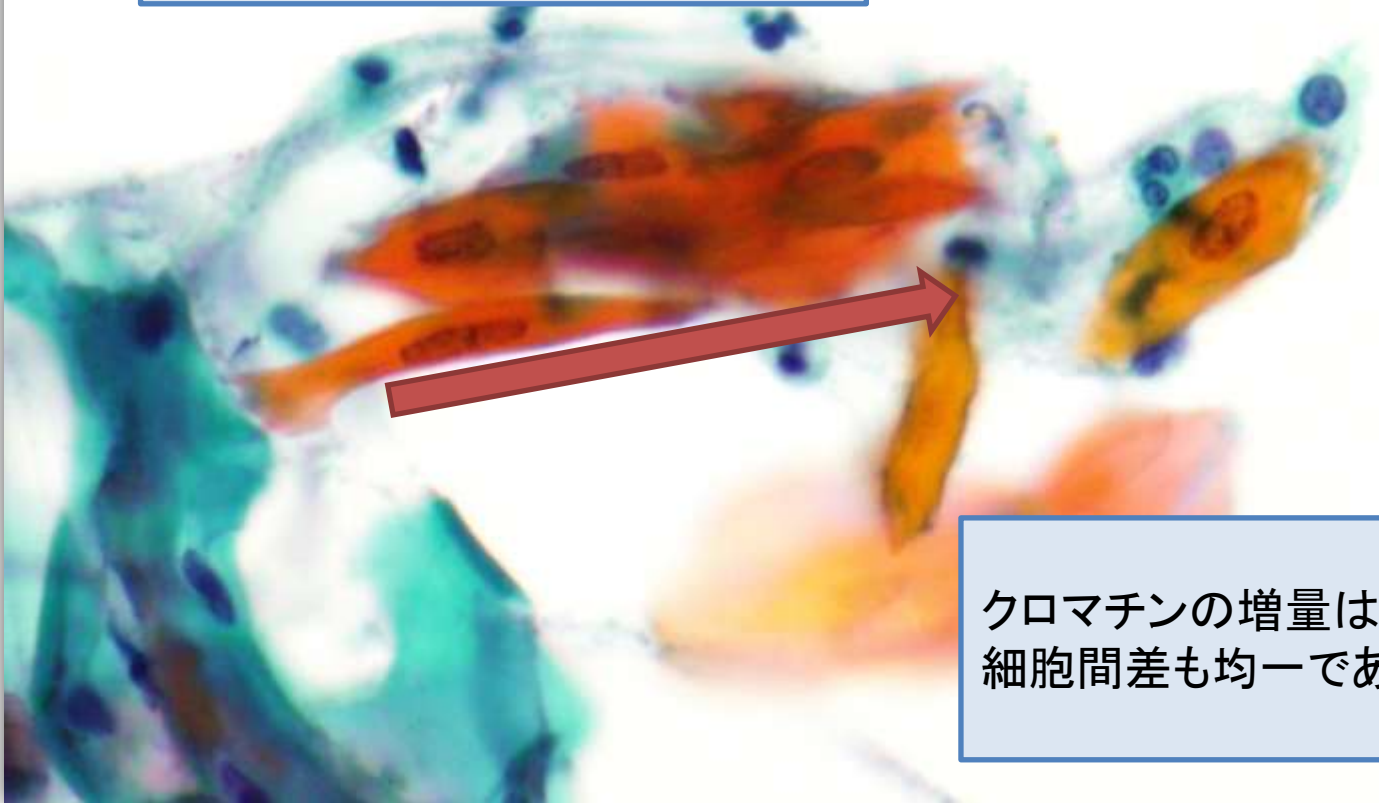
きれいな背景
正常な表層扁平上皮が主体

無核の表層細胞集塊
角化細胞の変性
→ 正常・良性所見で認められる所見



口腔 視野-1 強拡

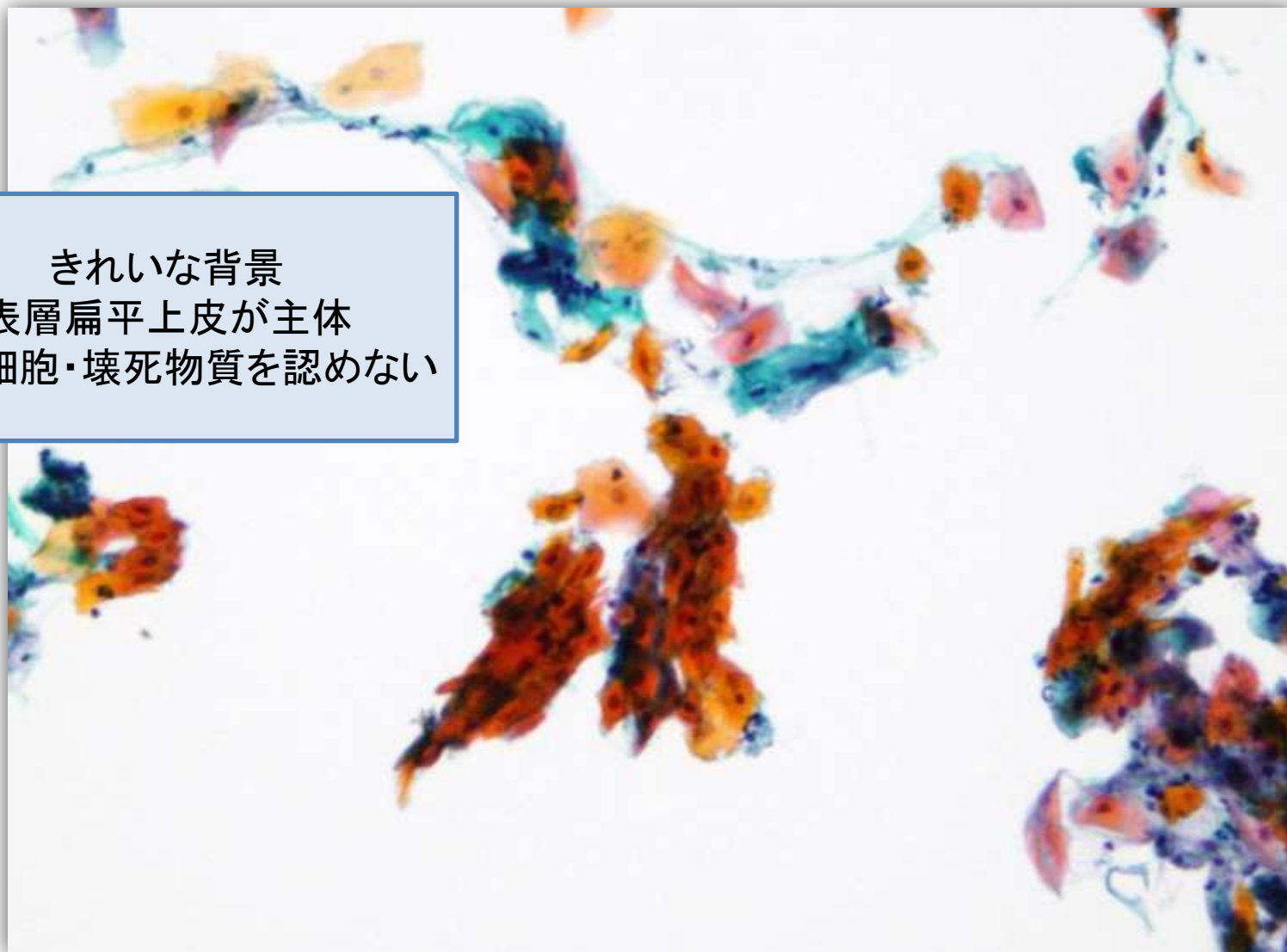
角化傾向、結合性の強い集塊核に一定方向の流れを認める



クロマチンの増量は認めず、細胞間差も均一である

口腔 視野-2 弱拡

きれいな背景
表層扁平上皮が主体
炎症細胞・壊死物質を認めない

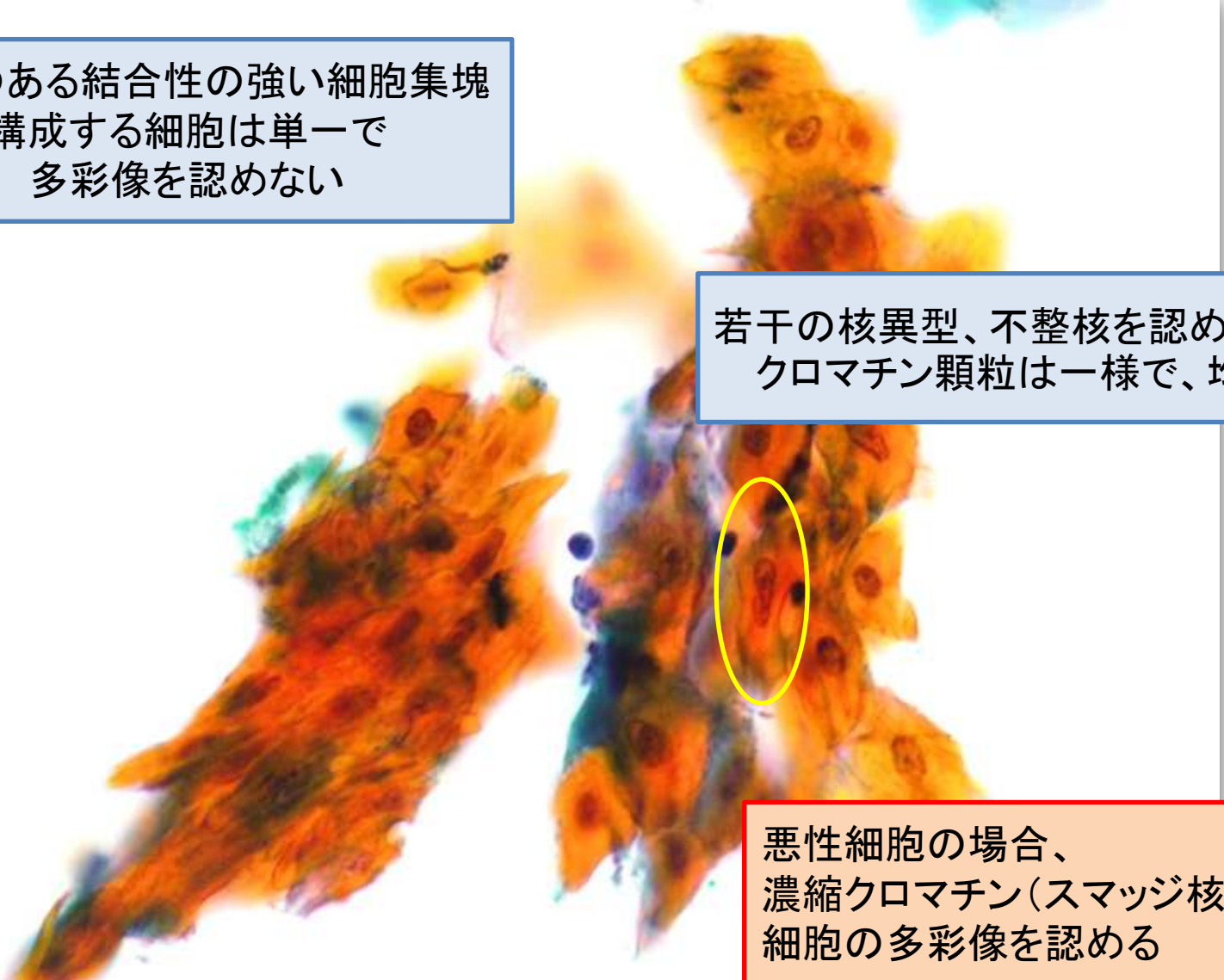


口腔 視野-2 強拡

流れのある結合性の強い細胞集塊
構成する細胞は単一で
多彩像を認めない

若干の核異型、不整核を認めるが、
クロマチン顆粒は一様で、均一

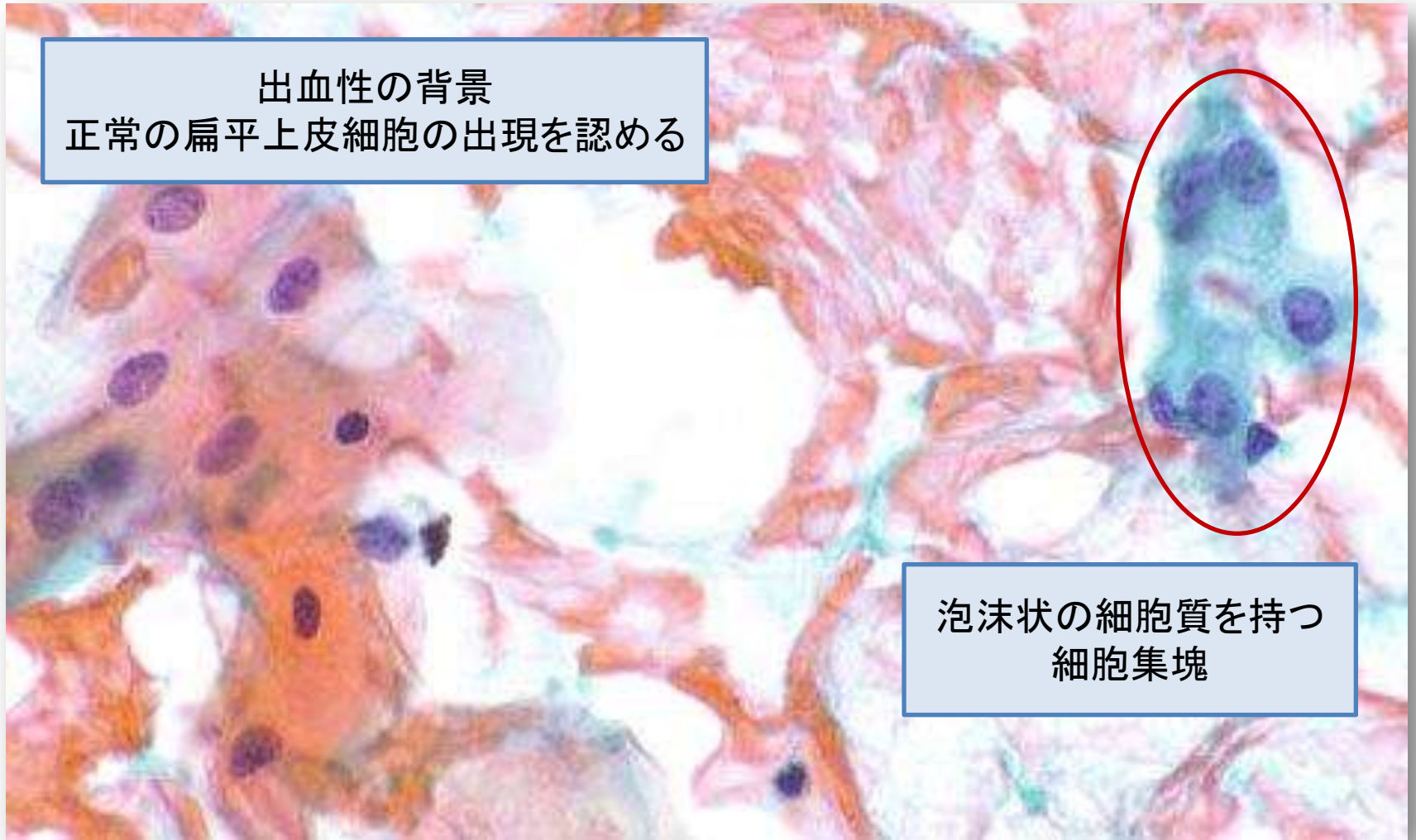
悪性細胞の場合、
濃縮クロマチン(スマッジ核)や
細胞の多彩像を認める



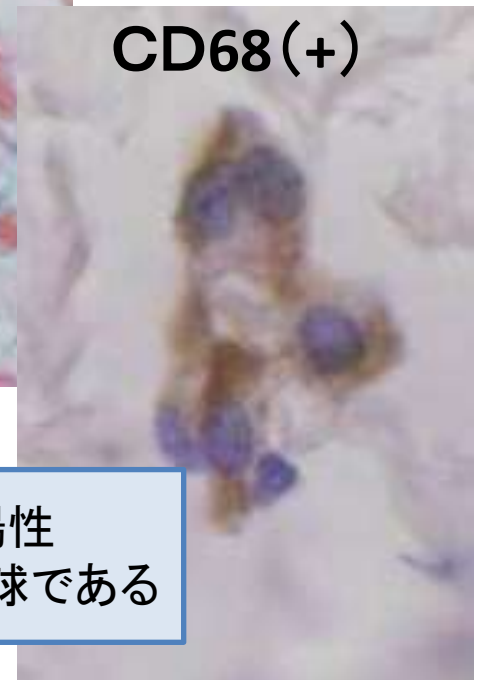
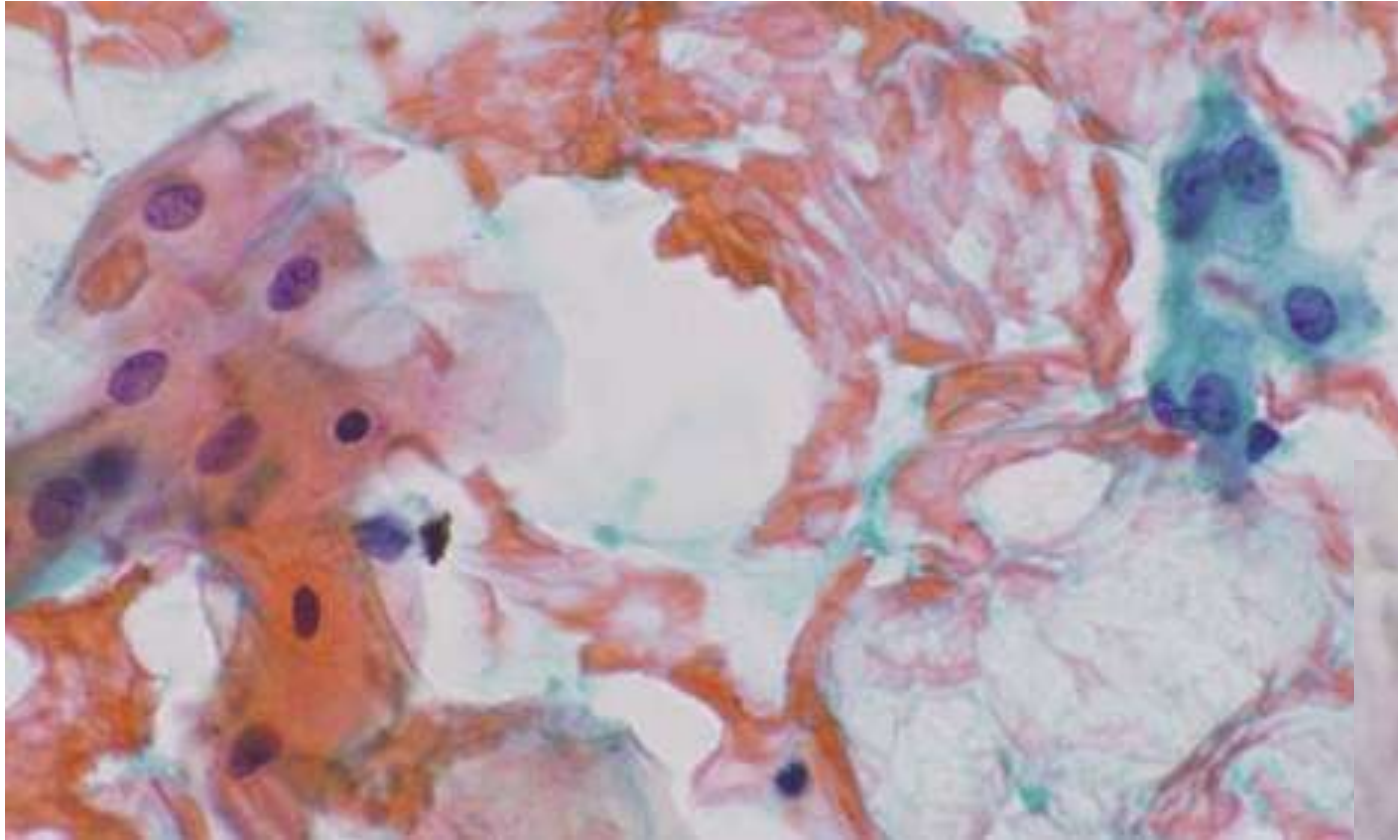
口腔 視野-3 強拡

出血性の背景
正常の扁平上皮細胞の出現を認める

泡沫状の細胞質を持つ
細胞集塊



口腔 視野-3



免疫染色にて、CD68陽性
泡沫状の細胞集塊は、組織球である

《細胞所見のまとめ》

- ①オレンジG好性、角化の強い細胞集塊
- ②結合性の強い細胞集塊
- ③単一な細胞で、多彩像に欠く
- ④軽度の核異型あり

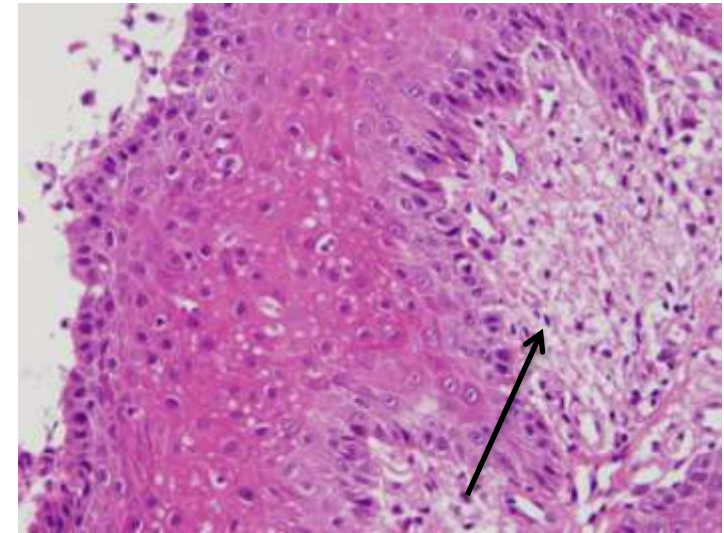
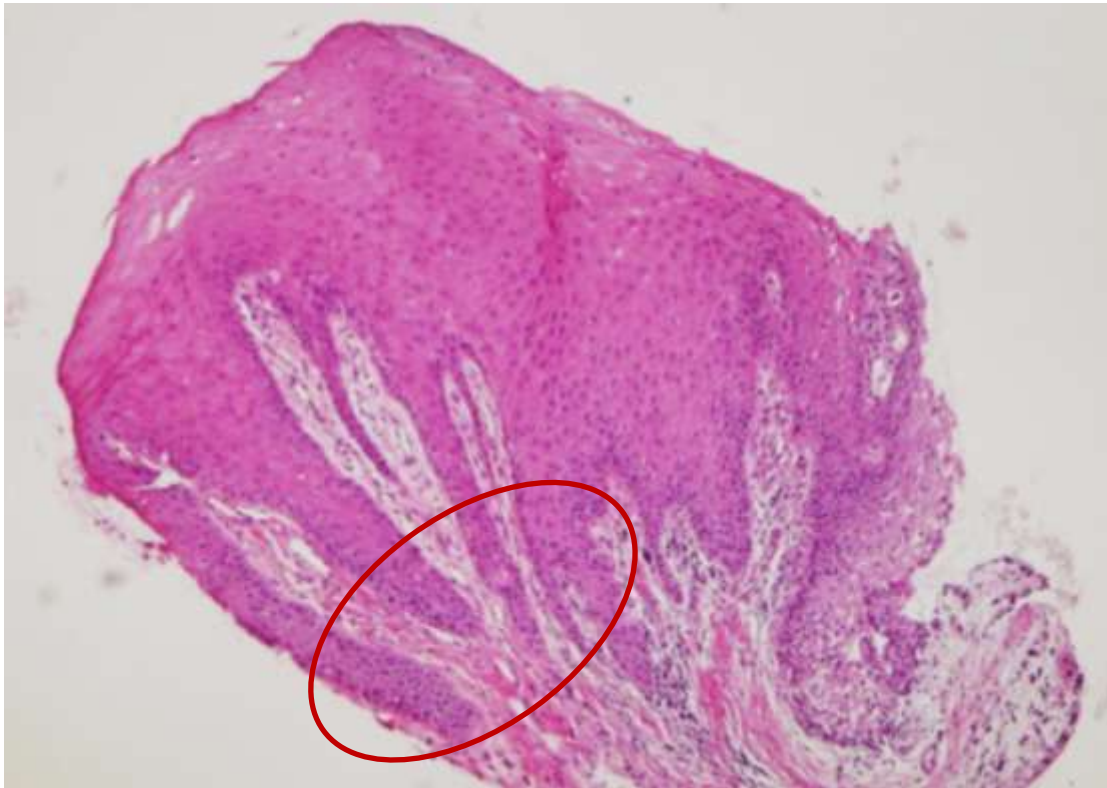
⇒ 良性反応性異型 NILM-LSIL

核所見は弱く、多彩像に欠けるため、HSILまでは取れない

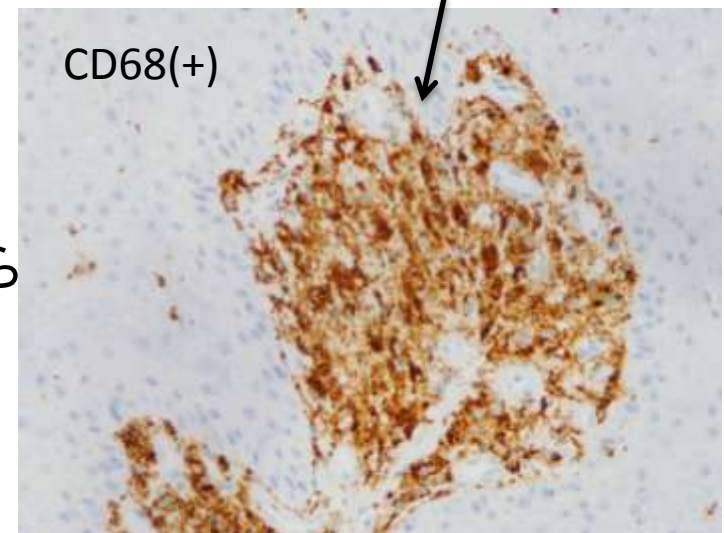
口腔 解答選択肢

- 1. 歯肉炎
- 2. 尋常性天疱瘡
- ③ 疣贅型黄色腫
- 4. 白板症 高度異形成
- 5. 扁平上皮癌

疣贅型黄色腫 verruciform xanthoma



Foam cell



重層扁平上皮の上皮突起の著明な延長がみられ、一部で棍棒状を呈する。上皮細胞の異型は乏しく、結合織突起には、泡沫細胞の集簇がみられ、免疫染色にてCD68が陽性である。

疣贅型黄色腫 verruciform xanthoma

- 1971年に初めて報告された、比較的稀な良性の粘膜病変
- 中高年者の**口腔粘膜**、皮膚に好発
- 組織学的に重層扁平上皮に**乳頭腫様の発育明瞭な小隆起**と、**過角化を伴う疣贅状増殖**が特徴
- 上皮直下の結合織を中心に**泡沫細胞の増殖**を認める
- 泡沫細胞は「黄色腫細胞」と呼ばれ、
PAS(+)、ジアスターゼ抵抗、**CD68(+)**
- 上皮脚の延長が著明で、表層細胞の角化亢進、上皮脚の延長を反映し、細胞異型を伴う事が多い
 - そのため、細胞診で**過剰診断する可能性**が高い